

温暖化に揺れるグリーンランド (10・8・21)

高田 良一 (昭23年・文乙)

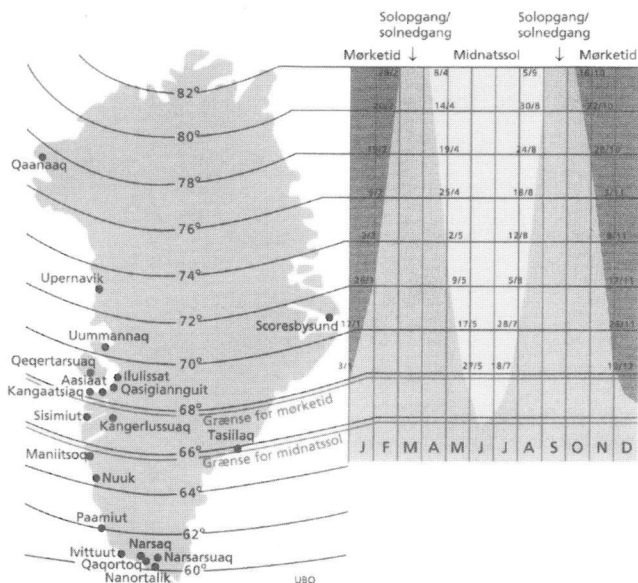
昭和廿三年文乙の高田でございます。まず、「グリーンランドとはどんな所か」と言う処からお話し申し上げねばならないのですが、三木会の皆さんにはひと昔前、二〇〇一年のクリスマス家族会の席上、グリーンランドについてお話しする機会があり、その節ご出席の方々も本日お見えの様ですので、極力重複を避けながら今日のお話の理解に必要な事項に絞って話を進める事にしたいと思います。

一、グリーンランドの地勢

グリーンランドはカナダの北東に位置する世界最大の島です。豪州はこれより大きいのですが大陸に分類されます。地球を平面に描きますと極地は大きく描かれますので大変大



① グリーンランドの地図



② 緯度と白夜・極夜の関係

きく見えますが、日本の約六倍の面積で、その北五分の四が北極圏に属します。北極圏とは地図の上では北緯六十六度半以北を云いますが、それ以南でも海岸線の極く細い部分を除いては氷床に覆われており、氣候的には島の全土が北極圏に属していると言えます。気象台の正式記録では冬の最低気温は摂氏零下三〇度台ですが、これは気象台が人の住む町にしか設置されていない為で、前人未踏の奥地の氷床では零下六〇度にも達すると言われています。

また、北極圏では夏は白夜と

迄は極夜となります。白夜の間は太陽が沈まない訳ですから、この時間帯は世間の常識に反して太陽は西から東へ移動し、昼間の移動を含めると天空に楕円を描く事となります。また、カナークでは極夜の最終日が明けるとほぼ四ヶ月ぶりのご来光を迎える事となり、



③ ご来光を待つカナークの人達

なつて太陽が沈まなくなり、冬には極夜となつて太陽が地平線上に現れなくなります。その期間は図②に示す通り北に行くほど長くなります。地球上で人間が定住する最北の町カナーク (Qaanaaq) は北緯七十七度半に位置し、四月下旬から八月下旬迄は白夜、十月下旬から翌年二月下旬

町を挙げての祭で賑わいます。

最後に、植物学上は北極圏とは寒くて喬木が育たない地域です。事実グリーンランドで喬木が生えているのは最南端の海岸線だけで、その他の地域は灌木、それも北に行くほど小型のものになり、更に北では匍匐植物、遂には蘚苔類のみとなります。

二、その国勢

グリーンランド（以下「島」と称します）は現在、デンマーク（以下「本国」と称します）の自治領で、本国の一県を構成しています。人口は六万人弱。その内の八割が蒙古系の先住民民族イヌイット（Inuit）です。二〇世紀初頭までは雪煉瓦を半球状に積み重ねた家に住んでいた彼等も、今では本国の高福祉政策の下で暖房完備の寒冷地住宅に住み、ゆりかごから墓場まで医療費負担ゼロの生活を享受しています。

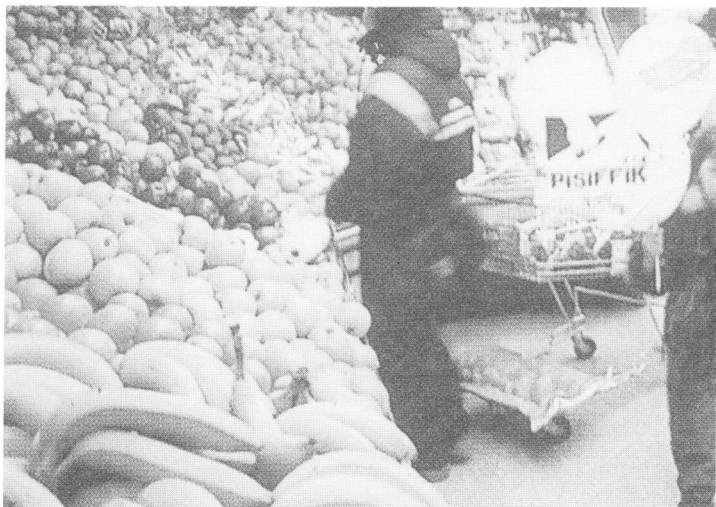
行政府の所在地ヌーク（Nuk）の人口は一万五千人で、その他の町計、十八の総てに行政機構、スーパー、病院、警察署、裁判所、学校等が設置されています。行政機構が設置されていない村落は「開拓地」と呼ばれ、食料・日用品店、学校、託児所が最低各一個所設置されています。定住者は居ないが特定目的の為に技術者が駐屯する所は「根拠地」



④ 獲物を売り捌く朝市 (Braedtet)

と呼ばれ、目的施設内または周辺に駐屯者・訪問者が生活するに足る設備が設けられており、代表的なものはカンゲルスアック (Kangerlussuaq) のハブ空港で、空港設備の他、ホテル、スーパー、博物館等が設置されていますが、同地には定住者は居りません。

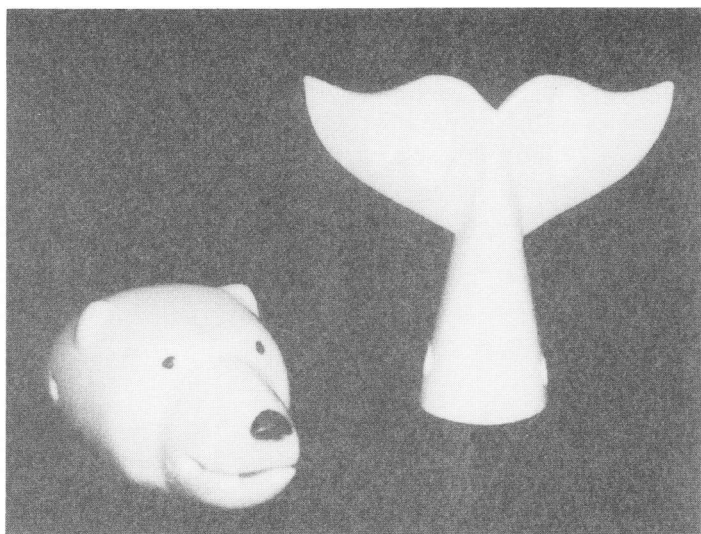
島には百年以上前から義務教育制が施かれています。現在は九年制で文盲率はゼロ%。使用言語はグリーンランド語で、デンマーク語は第一外国語となっています。学校は総て公立で全島に八十七校あり、一〇、六〇〇人の生徒に対し一千人以上の教師陣を擁しています。高等教育としては全島に高校が三校、短大が二校、首都には三学部



⑤ 生鮮食品を豊富に陳列するヌークのスーパー

からなるグリーンランド大学があります。

医療は歯科・分娩費を含め前述の通り全額国庫負担で、居住地の診療所で治療不能の病気は最寄りの町の病院で、それでも治療不能ならヌークの国立イングリッド女王病院で、なお治療不能の場合は、症状により、隣国アイスランドのレイキヤビック、アークレイリ又は本国コペンハーゲン所在の病院に移送され、この場合も交通費を含め全額国庫負担です。嘗ては結核治療が最大の課題でしたが、近年は各種の生活習慣病に取って代わられています。ヌークの健康医療官は島全体の公衆衛生の責に任ずる事となっており、患者からの愁訴に患者提訴裁判所と共に当たっています。また、高齢者の福祉も



⑥ 白い骨細工

充実しているものの、自助努力の引き出しを主眼としています。失業者に対しても自動的な失業給付はなく、余程の貧困者でなければ生活費補助の対象とはなりません。

イヌイットの日常食は捕獲した獲物が主体です。ヌークには狩猟に従事しないイヌイットの為に我が国の「農協の朝市」とも言うべき地元市場(Braedter)があり、日用品を売るスーパーには非イヌイット用に生鮮食料品用コーナーがあります。これらの生鮮食料品はバラエティに乏しいものの、本国から船便で運ばれ、多くは日本のスーパーより安くで買う事が出来ます。

イヌイットは後述する通り、有史以前の渡来この方、北欧人が定住する様になった十八世紀に至るまでの間、独自の「サルカク (Sargak)」と呼ばれる文化を培ってきており、その道の専門家はこれを前期・後期に分けています。前期についてはその殆どを発掘によ



⑦ ビーズで縫製した服で正装する娘たち



⑧ カツアク劇場での民族舞踏

り知るほかにすべがない状態ですが、皮革細工、角・骨細工、ビーズ手芸、絵画、舞踏、演劇に及んでおり、現今の土産品、興行にその伝統は継承されています。

三、その歴史

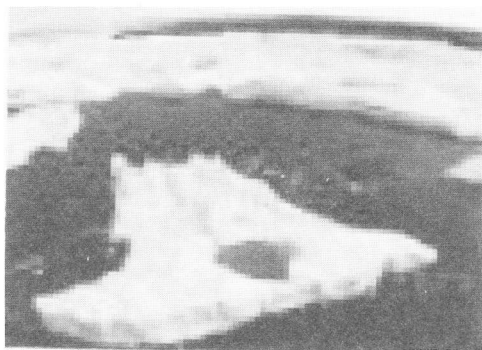
イヌイットは有史以前にカナダから徒歩で渡来したものとされています。島の北西部ホールランド (Hall Land) 付近はナレス海峡 (Nares Strait) を挟んでカナダのエルズミア島 (Ellesmere Island) とは二〇数キロの指呼の距離で冬は海が凍結しますから「徒歩による渡来」は充分に考え

られる所です。

十八世紀初頭に至るまでは時にアイスランド等の漁業基地となったりしながらも、他民族の定住は成功せず、この北極圏人の一部族は前・後期に亘り独自の文化を形成した事が今日の発掘等から推測されます。

一七二一年にハンス・エヘデ (Hans Egede) 牧師がノールウェイから布教の目的で来島、定住してから島は急速にヨーロッパの影響を受ける様になりました。一八一四年のキール (Kiel) 条約で正式にデンマーク領と認定され一九〇八年にはデンマークの領土としての行政機関が設置されています。

第二次世界大戦が勃発して一九四一年に本国がナチスに占拠されると、島と本国並びに在英亡命政権との連絡が途絶えた為、在ワシントンの本国大使館は米国との間に島の防衛協定を締結して島の安全保障を米国に委嘱しました。その結果及び戦後の米ソ対立もあり二つの米空軍基地が建設され、うち一つ、前述のカンデルスアック所在の基地はその後のデタントで島に返還され、島内航空網のハブ空港となっています。今も残るチュール (Thule) の米軍基地は同国の最北端軍事基地としての重要な役割を担っていますが、その建設時に住民のカナークへの強制移住を伴った為、今なお強制収容の補償や土地返還など、沖縄同様の問題を抱えています。



⑨ ムーラン

一九七九年に自治権を与えられると島は独自の議会を設立し、二名の議員を本国議会へ送り込み、島の利害に関する本国議会の決議は島の承認を得ねばならぬ事となりました。自治の範囲はその後数次にわたり拡げられ、今では独自の国旗・紋章を制定し、郵便切手を発行しています。今なお本国の権限に残されているのは安全保障、一部の外交権、それ

に通貨発行権ぐらいです。さはさりながら、歳入の三分の一は本国よりの交付金で賄われており、経済的自立は今なお困難である事は島民もよく弁えている処です。

一昨二〇〇九年七月実施の島民投票により島の地下資源産出代金の帰属が明確化され、最初の七千五百万クローネとそれを超える額の半分は島に、残り半分は本国の交付金と相殺される事となりました。同時に将来の島民投票での多数決により本国よりの完全独立が認められる事となったのです。現在それに向けて司法権・警察権の移譲が進められています。



⑩ セルメク クヤレク永河

四、温暖化に伴う諸問題

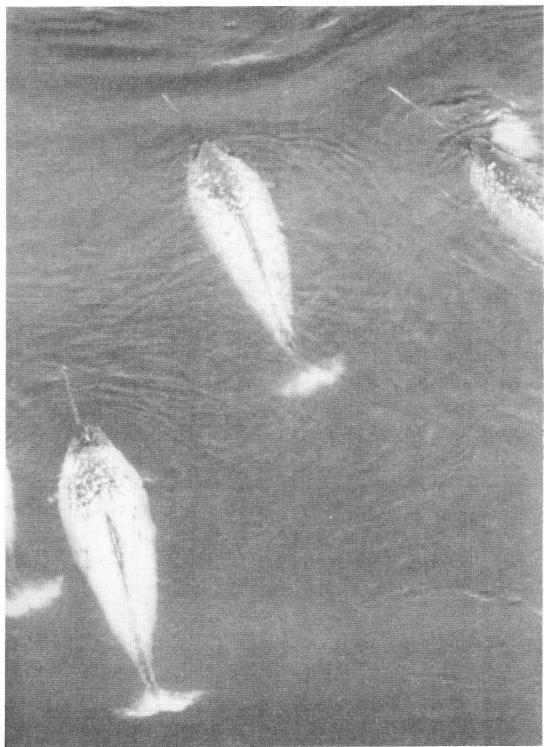
地球の温暖化によって極地の氷が溶け、海面の上昇によりバングラデシュはじめ、モルディブ、ナウルなどの島嶼国家が海中に沈んでしまうと騒がれています。グリーンランドではどのような変化が起こっているのでしょうか？島はその面積の八十一％が氷床に覆われていますが、そのてつぺんは当然の事ながら起伏があり、夏期には窪んでいる所に溶けた水が集まって池をなしている事は以前から知られていました。温暖化によりその池が大きくなったばかりでなく、近年はそれらの池の底にムーラン（「水車」を意味するフランス語）と名付けられた穴が開いて溶けた水が流れ込む様になり、中にはその直径が二十メートルに達するものもあります。氷床の厚さは三千メートルもあり、流れ込んだ水がどうなっているのか、海中に流れ出しているのか不明で、それを調べる為にムーランにアヒルのデコイを投げ入れましたが、現在の所、一個も海上では発見されていません。



⑪ 傾いた家屋の修復

氷床の融解・流出はこの他、氷河となつて海に流れ込むものがありますが、その流量が北半球で最も多いのがイルリサット (Ilulissat) のセルメククヤレク (Sermeq Kujalleq) 氷河です。過去十年間に十五キロメートル前進しています。が、内この一年に十三キロ、夏場は一日三十メートル前進したと言いますから温暖化により如何に流れが速くなったか、即ち融解の量が多くなったかが判らうというもので、年間三十五立方キロメートルの真水が海中に流出しています。因みにグリーンランドの氷床は世界の真水の十%を占めています。

極北にあるグリーンランドは地球の温暖化により受ける恩恵の方が温暖化に伴



⑫ 一角鯨

う困難よりも大きい事は論を俟ちませんが、それでも温暖化が今までのライフサイクルを脅かす事柄が幾つか存在します。その第一は温暖化による永久凍土の融解です。即ち、永久凍土の上に建てられた建造物がその融解により倒壊する事件が現に起こっております。

グリーンランドの地

盤は一枚の大きな岩盤から成っているとされていますが、内陸は先に述べた様に一万年に及び積雪が厚さ三千メートルにも推積した氷床に覆われています。その外縁の土壌は年間を通じ融解することなく永久凍土となっており、岩が露出している所は岩の上に建物の

基礎を据える事は当然ですが、凍土に覆われている場所では凍土の上に基礎を据える事が何の疑念もなく行なわれてきました。この上に建てられた建造物が「砂上の楼閣」と化すとは何人も予測出来なかった所なのです。

第二に狩猟環境の変化が挙げられます。住民の大部分は專業ならずとも兼業で狩猟に従事しています。獲物は北極熊、麝香牛（ジャコウウシ・musk oxen）、馴鹿（トナカイ・reindeer）はじめ海豹（アザラシー・seal）、海象（セイウチ・walrus）、一角鯨（narwhal）等の海獣ですが何れも温暖化により棲息地が移動、北極熊などは流水の融解により生息そのものが脅かされている現状です。また海豹の捕獲は氷上に盾を前面に翳して接近したり、氷に穴を空けて遊泳中のものを捕獲するのですが、夏期は融解しないまでも氷が割れる事が多くなっており、猟を困難ならしめています。

第三にはライフスタイルの急変に伴う社会秩序の構造的変革です。この点は温暖化に先立ち既に見られた所ですが、半世紀前までは雪の家に住み獲物に食料を依存していた生活から自治権の獲得によって急速に近代的生活へと変化を遂げた結果、ストレスに原因する自殺、家庭内暴力等が増え、前者については「世界一」の有難くない記録を保持しており、その対策が喫緊の課題となっています。温暖化は生活環境の変化に輪を掛けるという意味で此の問題に関連して来るのです。

五、温暖化が齎す恩恵

地球の温暖化がグリーンランドに齎す第一義的な恩恵は気象の温暖化による極寒からの解放です。これにより暖房エネルギーの節約はもとより、家畜の放牧、野菜の栽培、林業の育成、鉱物資源の発掘、海運の活性化等の諸施策が現実味を帯びる様になり、二次的効果として観光客の誘致も図れる事となります。そしてグリーンランドの場合、以上にもまして、独立を達成する事が現実味を帯びる事となります。以下、その各々につき説明しましょう。

狩猟の獲物となる諸動物の内、北極熊、馴鹿、雪兔、北極狐は自生、麝香牛は北米から移入されて自然繁殖したもので、その他の動物はこれまで屋外での生育が不可能でした。それが温暖化によって山羊、羊の屋外放牧が南部地区で試験的に行なわれる様になります。また、野菜の栽培や喬木の植生も最南端で試みられています。

鉱物資源の採掘は地元民が最も期待を込めている温暖化が齎す恩恵です。グリーンランドには金、鉄鉱石、鉛、亜鉛、ウラン鉱、プラチナ、モリブデンなど豊富な鉱物資源の埋蔵が確認乃至推定されており乍ら、地面が氷床に覆われていた為、今まではその採掘が技術的にも経済的にも困難を伴う事から、商業ベースの採掘は多くは行なわれていませんで

した。それが温暖化による地面の露出によって、亜鉛の採掘が緒に就く様になりました。中でも推定埋蔵量千百億トンと言われるディスコ (Disko) 湾の海底油田・ガス田の採掘は後述する様に島の完全独立を現実のものとして呉れる可能性を秘めるだけに注目されています。

以上、鉱物資源の採掘については、大きな期待がある一方で、環境保護の立場から、はたまた狩猟重視のライフサイクル保全の郷愁からも根強い反対が内外に見られます。南氷洋で日本の試験捕鯨を妨害しているグリーンピース号はここにも出没していますが、今のところ、政府が規制する試掘地点の一キロ以内には立ち入る事なく問題を起こしていません。原油・天然ガス以外に開発が問題視されているものにはウラン鉱があり、環境保護論者はここでも採掘反対の立場を取っています。

また、氷河の融解を利用して水力発電を立ち上げ、アルミニウムの精錬工場を建設するプロジェクトがすでに進行中であり、融解した真水をその確保に困る中近東等の諸国に売り込む事も計画が進められています。



⑬ ケーン社の試掘

六、原油の採掘と独立達成

これら温暖化に伴う諸々の恩恵の中でも原油の採掘はその経済的効果の大きさからも最も注目を浴びる所です。民族自決の願望は人類の本性に基づくものであり、経済上の理由とデンマークの善政によって三百年この方眠っていた本性が呼び起こされたとしても決して不思議ではありません。何故なら、原油の採掘が成功すれば、その代金で先に述べた二〇一〇年七月の取り決めに従って、最初の七千五百万クローネの全額と、それを超える産出額の半分は島のGDPを押し上げる要因となり、残り半分は本国よりの交付金を減らす要因となるのですから。本国よりの交付金（現在年間約四〇億クローネ）をゼロにする年間八〇億クローネの原油が産出

されれば本国への経済的依存を完全に断ち切る事が出来るのです。以上の事情からグリーンランド政府は本心これを積極的に進めたい所ですが、国内には根強い反対論がある上に、アラスカでの EXXON、メキシコ湾での BP による原油流出事故から石油メジャー自身が現状無期限に洋上での掘削を自重していると云う厳しい国際世論を勘案して「世界で最も厳しい規制」の下で海上試掘を進める事としました。昨二〇一〇年六月にスコットランドのケーンエナジー (Cairn Energy) 社に与えられたデイスコ湾での試掘許可はこの規制を条件としています。この規制を満たす為のケーン社の対策及び保証の費用は年間六億ドルに達すると言われています。

七、今後の展望

以上見てきた様に、原油の産出の実現自体幾つかの困難を乗り越えなければなりません。年間四〇億クローネの本国交付金の相殺には、原油一バーレル八〇ドルとして年間一千六百万バーレル (日産四万五千バーレル) の産出が必要で、そこまでするには約十年の歳月が必要であろうとの専門家の意見です。その結果、稀有の善政と言われるデンマークの庇護を離れて、自力でそれだけ質の高い政治をおこなえるだろうか、石油メジャーの

虜になって自然と共存するライフスタイルを失うのが「果たしてイヌイットの幸福に繋がるのだろうか」と自問する声も聞こえてきます。それにしても、人口六万に満たない人間集団が現在の世界で独立国として機能し得るだろうかという冷ややかな眼差しも感じられます。

資源の発掘は焦らず、リスクを背負わず、時間を掛けて、デンマーク、EU、そして近隣諸国とも意見を交わしながら、民族自決のあり方を探る事が求められているのではないのでしょうか？

以上

（東京銀行常務取締役）

（本稿は三木会での卓話の記録を素に編集子のご要請により多少の補筆・補足を行なったものです）